

漢字を「文中で適切に使える力」の育成を目ざす

新しい指導を考える会

1 子どもたちの姿から見えてきた課題

現行の学習指導要領では、目標、内容及び言語活動例は二学年ずつにまとめられ、書きの指導については当該学年で漸次書くようにし、上の学年までに、文や文章の中で適切に使うことができるよう時間をかけて指導することになっている。

教科書では、「漢字の広場」として、学年に数回、前学年の漢字を学習できる小単元が設定されている。

四年生の「漢字の広場①」の学習では、最初、教科書に出てくる課題で子どもたちに文を作らせ、その後、二人組になって友達の間で文を評価するという展開で行った。

子どもたちの様子を見ていたところ、文意が通じないものや言葉の使われ方がおかしい文にも丸印をつけている子が非常に多くいた。子どもたちの意識は、提示されている言葉が「使われているかどうか」に集中しており、文の中で「どのように使われているか」、また、「どのように使えばいいか」という点にまで意識が向いていなかったのである。例えば、ある子どもが教科書で提示された三つの言葉を用いて作った、『農家のやさしいは、畑でとれた物なので安売りです。』

という文について、正しいかどうか学級全体で話し合ったところ、ほとんどが、「正しい」という反応を示した。これらの様子から、漢字の習得とともに言語事項全体にかかわる力を培うためには、漢字を文や文章の中で適切に使うことができ、文意にまで意識が向くように指導していかなくてはならないという思いが強くなった。

2 系統性を意識した学習の構想

先に述べた課題意識から、「漢字の広場」を小単元として細切れに指導するのではなく、年間を通しての系統性を意識した学習展開をすることが必要だと考え、学習指導書に掲載されている以外にも、年間を見通しての目標を独自に設定し、授業を構想していくことにした。

【資料1 (P14)】

3 評価の観点

教科書に提示されている言葉を用いて作った文を、子どもたち同士でお互いに評価するような学習場面を設定した。その際、

どのような観点で評価していくかを前回の学習を想起させながら話し合ったところ、子どもたちが挙げてくる観点にも変化が見られた。

「漢字の広場①」で児童が挙げた観点は、

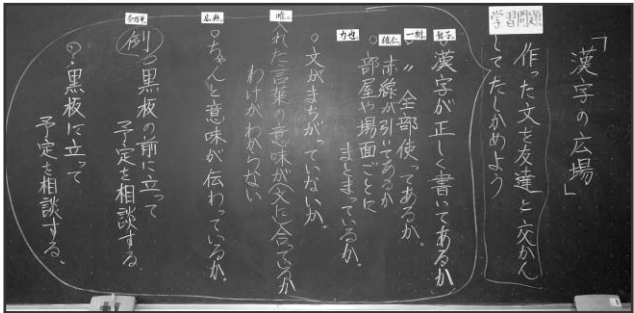
- ・(教科書に提示された) 言葉を全部使ったか。
- ・ていねいな字で正しく書いてあるか。

の二点だけであったが、「漢字の広場②」では、子どもたちから

- ・文に間違いはないか。
- ・わかりにくい文はないか。
- ・読んだ人に正しく通じるか。
- ・字は間違っていないか。
- ・言葉は全部使ったか。

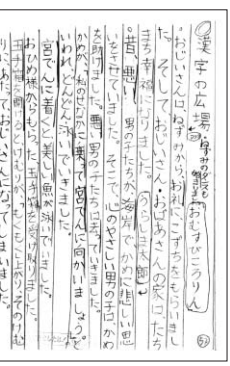
と五つの観点が出された。前回と比較すると、明らかに子どもたちが文に意識を向け始めたことがわかる。

さらに、「漢字の広場③」では、例を挙げて、文に適切に用いることを考えた方がよいという意見を出す子どももいた。これらの子どもたちの様子から、系統性をもたせた学習過程を経ることにより、漢字や言葉を文に適切に用いることや、作った文の文意や文脈に意識を向けることの大切さに気づくことができてきた。



4 「漢字の広場④」での実践

「漢字の広場④」は、教科書に提示された言葉を使って、『おむすびころりん』と『浦島太郎』の二つの昔話を構成していく課題である。現在の子どもたちにとって、昔話は馴染み深いものとはいえず、話のあらすじがわからないという子どもも多いため、話の筋を考えながら言葉を使って文章を作っていく活動には抵抗があると考えた。そこで、楽しむ中であらすじを確認しながら文作りに取り組み、さらに話のつながりも意識させることができるよう、「語り」(※1)の学習を取り入れた。



5 おわりに

漢字や言葉の習得の最終的な目標の一つに、いかに文中で適切に使えるかということがありと考える。それには、系統的・継続的な学習をいかに取り入れていくかが重要であり、今後も検討していきたい。

(※1)「語り」とは、「語り手が、自分が記憶する話を聞き手に語り聞かせる」「(ことばと心をひらく)「語り」の授業」(東洋館出版社)という意味でとらえている。ここでは、グループで自分が話したい部分まで話し、次の人へタッチする方法を用いた。

【資料1】系統性を意識した「漢字の広場」の学習構想

単 元	単元の目標・留意点	
漢字の広場① 町やまわりの様子	目標	①提示された言葉をすべて使って絵を参考にしながら文章を書く。 ②提示された言葉が使われているかなど、作った文章を友達と確認し合う。
	留意点	・言葉を全部使おうという意識をもたせて文章作りに取り組ませる。 ・一つの文章に入れる言葉の数を制限せず、現在できる範囲で文章作りに取り組めるようにする。
漢字の広場② 人々が「していること」	目標	①前回の学習の課題を想起し、絵で示された場面の様子を考えながら提示された言葉をすべて使って文章を書く。 ②作った文章で言葉が適切に使われているか、友達と確認し合う。
	留意点	・一つの文章の中に複数の言葉を取り入れて文章を作るよう条件を加え、文章表現をふくらませていくことを体得させる。 ・言葉の終止形が変わっても、文章に合っているならよいということを知らせ、適切な言葉の変化について考えさせる。
漢字の広場③ 午後の学校の様子	目標	①前回の学習の課題を想起し、絵で示された場面を区切り、ひとまとまりの場面を意識しながら、提示された言葉をすべて使って文章を書く。 ②作った文章で言葉が適切に使われているかどうかを友達や全体で確認し合い、修正する。
	留意点	・一つの場面を伝えることを考えさせ、文章表現のまとまりに気をつけようとする意識をもたせる。
漢字の広場④ 昔話	目標	①物語のつながりを考えながら、提示された言葉をすべて使って文章を書く。 ②作った文章が筋に合っているか、発表し合う中で確認する。
	留意点	・一つの物語の筋を意識させ、作った文章のつながりが適切か、よりよい表現ができないかなどを意識できるようにしたい。
漢字の広場⑤ 休日の様子	目標	①これまでの学習の課題を想起し、どこで、どんな人が、どんなことをしているか、場面を考えながら提示された言葉をすべて使って文章を書く。 ②使った言葉が文脈の中で適切に使われているかどうか友達と確認し合う。
	留意点	・一つの文章の中で言葉が適切に用いられているか気づくことができるように、文章全体や文脈を見る意識をもたせる。
漢字の広場⑥ 学校や家での勉強	目標	①これまでの学習の課題を想起し、場面を考え、文脈に合っているかどうか考えながら、提示された言葉をすべて使って文章を書く。 ②使った言葉が文脈の中で適切に使われているかどうかを友達や全体で確認し合い、修正する。
	留意点	・場面や文脈を考え、適切な場所や意味で言葉が用いられているか気づくことができるように評価に困った点を出させる。